

## ジュニア救急法（初級）

指導時間（2単位時間）

### 1. はじめに

ジュニア救急法（初級）はジュニア救急法（中級）の前段階として位置付け、対象は小学低学年とする。発達段階と学校の保健授業を考慮したうえで、カリキュラムの編成を以下のようにする。

### 2. 指導計画

時間	指導項目	指導内容（抜粋）	評価の観点
1	応急手当の必要性 人を呼ぼう	大人を呼ぶ 救急車を呼ぶ（119番通報） 電話のかけ方 状況の伝え方	助けを呼ぶことの重要性を理解させる
2	自分の出血を止めよう	血液の説明 直接圧迫止血法 包帯法「伸縮」	血液を止めることの重要性 伸縮包帯の使い方

### 3. 準備するもの

電話模型・滅菌ガーゼ・伸縮包帯など

### 4. 指導上の留意点

- ①指導時間1単位時間は、参加人数等により40分～50分とする。
- ②集中力の続かない低学年では、1単位の中で1つの内容を伝えることが精一杯である。従って、内容は中級の前段階として「助けを呼ぶ」、「自分の血は自分で止める」とした。
- ③出来るだけ分かり易い言葉や説明と、視覚に訴えた教材を準備すること。
- ④一人の指導者だけでなく、クラブ指導者（複数）にお手伝いをお願いする。

※初級は心肺蘇生までの一連の動作の中から、小学校低学年で出来る範囲の内容で指導を行う。具体的には電話をかけた後、大人を呼びに行くことなどが中心である。

※初級では自分で出来る応急手当を覚え、自分で出来ることは自分で出来るようにさせたい。